



消防大学校だより

救急科(第74期)

平成24年9月11日から10月11日までの1ヶ月にわたり、救急業務の指導的立場にある職員の資質の向上を目的に、救急科第74期を開講しました。全国の消防本部等から選抜された救急隊長等の35名が、設定されたカリキュラムに積極的に取り組みました。

現在、救急業務は、出場件数の増加、医療との連携による搬送体制の構築等多くの課題を抱え、学生は救急業務の指導者として求められる知識、技術の習得に努めるとともに、その職責、心構えについても認識を深めました。

研修では、消防庁救急企画室による救急行政の動向、最新の救急医療の動向に関する講義、救急需要対策や医療との連携に係る先進的な消防本部の取り組みに関する講義と現地の視察等を実施し、このほか、理論に基づく系統だった部下指導及び救急活動が実践できるよう、リーダーシップ論、教育技法、説得技法や接遇に関する講義や演習等も実施しました。

これらのカリキュラムに加え、課題研究の授業では、各学生が救急業務を遂行する上での問題点について自らテーマを設定し、現状、課題、解決策等について整理、検討を行い、その検討結果についてはパワーポイントを活用した説得力のある資料を作成した上で、研究成果を学生全員の前で発表しました。また、訓練企画運営の授業では、研修の集大成として各班単位に救急訓練のシナリオ作成を行いました。実際に他の班を実施隊として想定訓練を実施しました。訓練結果については検討会を開催、評価するという一連の過程により実施し、訓練指導技術の向上について学びました。

1か月にわたる研修期間では、学生は多彩なカリキュラムに真剣に取り組むとともに、寮生活においても各消防本部の現状及び救急業務が抱える課題等について熱く語り合い、全国規模の絆を育みました。

教育を終えた学生からは、「研修で学んだ指導者、リーダーとしての資質、考え方、身の振る舞い方をこれから所属で実践していきたい。」「課題研究発表で他の本部の抱えている問題点や考え方を知ることができ、今後の活動に生かしたい。」「訓練企画から運営までの流れと着眼点について理解し、検討会の重要性を学ぶことができた。」などの意見がありました。

救急科第74期の卒業生35名は、全国各地の消防本部等における救急業務の指導者として、若手の育成、医療との連携、業務高度化への対応等様々な場面での活躍が期待されます。



災害医療講義



救急訓練運営



通常点検



多数傷病者訓練